

平成 30 年度 豪・メルボルン短期留学プログラム 感想

A 類 美術選修 1 年生

今回プログラムに参加した理由は主に 3 つあります。1 つ目は、英語に触れることです。2 つ目は「教育」とは何かを探るためです。そして最後に、日本との違いを探るためです。大学に入学して 1 年が経ち、さまざまな科目や授業を勉強してきました。もちろん教職科目もありました。教育に関連した事柄について学んでいましたが、教育とは何かと聞かれた時に答えが明確でないなと思ったのが始まりでした。「教える」ということはどういうことなのか。日本と海外の教育はどう違うのか。これらを学ぶために今回参加しました。

プログラム中は、積極的に英語でコミュニケーションをとり、気になったことは質問するように心がけました。何事も経験した者勝ちだなと思います。ただ想像で考えるよりも実際に活動して経験するほうが吸収できると思います。そのため、思う存分行動し、交流することを心がけました。

実際にプログラムを終えて、濃い 9 日間だったと思います。前半は自由行動が多かったように感じましたが、後半は学校訪問や美術館見学など、タイトなスケジュールでした。ですがその分、経験できたことはたくさんありました。特に印象的なのが、オーストラリアの美術教育について学ぶことができたことです。ELC という幼稚園のアートクラスを見学し、日本の子供達の表現とは違うことに気づきました。日本の子供達は、何か作業を始めてと言われると恐る恐るやるように思います。それはきっと間違えた時に恥ずかしさを感じるからだだと思います。それとは逆に、オーストラリアの子供達は、道具が渡されると今か今かと待ちわびている様子でした。また、自分が描いた絵について先生に紹介していました。さらに、メルボルン大学の美術の生徒さんと交流した際に、私たちの考え方が違うということに気がつきました。今回は「プラスチック」の問題について考える内容でした。私たちは、「プラスチック問題」と聞くと理科や社会だと思い浮かべるかもしれませんが、そうではなかったのです。その内容を美術を通して考えて行こうというものでした。初めはどんなことをするのか不思議な気持ちでいっぱいでした。ですが、さまざまな活動に参加したり現地の人と関わったりすることで、お互いの考えを共有できる良い機会でした。

今回のプログラムでは、主に美術教育について学ぶことができました。私は将来図工の先生になりたいとおもっているため、今回学んだことが存分に発揮できるでしょう。そしてこれからも、海外に行って大学生のうちしか経験できないことを思う存分したいと思っています。